

審 議 経 過 [要点記録]

(1) 第 1 期総合戦略について (資料 1 ~ 2)

令和 2 年 3 月 3 1 日までとしていた第 1 期総合戦略の推進期間を、令和 2 年 9 月末まで延長し、着実な効果検証を行いながら、第 2 期総合戦略の策定を行うこと、またそれに伴い現在委嘱している委員の任期も半年間延長する旨の説明を行った。

(2) 第 2 期総合戦略の策定について (資料 3 ~ 5)

第 2 期総合戦略については、これまでの体制はそのままに、国が示す新たな視点を推進上の考え方として導入。

また、「シティプロモーション」の考え方を中心に据えてアクションプランを重点化し、これまで以上に「行政」と「伊万里市に関わる全ての人」が連携しながら推進できる体制を整えることの説明を行った。

[市民部長]

予算との整合性をどう考えるか。新たな視点を入れると言っても令和 2 年度の予算には反映できない。実質的には令和 3 年度からの推進となるのか。また、新たな事業を行う場合、一般財源はどのように使うか。

[事務局]

国同様、第 1 期の枠組みを踏襲しているので、基本的には今やっているものを引き続き頑張ってくださいことになる。新規については令和 3 年度からのものもあると思うが、各省庁の支援策も活用しながら財源を確保したい。

〔市民部長〕

総合計画との整合性をどうとるか。

〔事務局〕

第1期の総合戦略では、総合計画の施策との関連性が薄く見えていたため、これまで事業名を列記していた具体的な取組の部分を総合計画の施策で捉えた。

あくまで事務局案なので、他にいい方法があればご教示願う。

〔本部長（市長）〕

人口動態の経年データを見ると、男性は10代後半に転出超過したものがその後20代で一定程度の転入超過に転じているのに比べ、女性は10代後半でも20代でも転出超過の状態にある。これは大きな課題であり、今後の地方創生の取組上大切な要素があるように思うし、議論しなければいけない事だと思うので、今後もっと詳細なデータなどあれば願います。

また、政策経営部長から何かないか。

〔政策経営部長〕

就業状況を見ると女性の医療福祉分野は他市に比べ多く、また確実に増えている。働く女性の受け皿は必要。

第2期総合戦略の基本的な方向性はこれでよいと思う。シティプロモーションを軸にして、意欲的にやっている人を生かすことが大事。伊万里市には、何も言わないけれど何かをしたい、何かができる人がいる。地方創生は行政だけではうまくいかないの、そのような人からどうやって協力を得ていくか、ということが課題。

〔本部長（市長）〕

計画書を作ることが地方創生の目的ではなく、地方創生の担当課だけで計画書をつくるものではない。総合計画は総花的できれいに整ったものだが、この総合戦略については、泥臭くても必要なものを作ってほしい。

また、シティプロモーションについては、市外向けはよく見えているけれど、市内、市民に対するプロモーションがいまひとつできていないように思う。

市民に分かってもらう、伊万里の再発見をしてもらえるよう、各部署でできることを協力してもらいたい。

事務局については、委員のみなさんの意見をしっかり聞きながら、第1期の効果検証と第2期の策定を確実に進めること。